

保護者のことば

伊那西高等学校

令和2年度卒業生の保護者の方々から寄せていただきました。(原文のまま)

I様 (I・Iさんの母)

入学式当日のホームルームで、担任の先生含め生徒たちが初対面と思えない雰囲気でも明るく談笑する姿が印象的でした。

小中学校時代には新しい環境に慣れるまでに物凄くエネルギーを使い、なかなか自分を出せず親子で悩み苦しむ事の多かった娘が、初めて『学校が楽しい』と登校する姿を目にした時は本当にうれしいものでした。保護者も何度か先生方を含めた懇親会やPTA行事などの参加により、子どもたちの様子について情報交換や相談などもしました。

見違えたように生き生きしてきた娘は学習にも積極的に取り組み、成績も上がってきて、それがまた学習意欲に繋がっていったようです。先生から問題集をすすめられたり、質問に行くと丁寧に教えてくださったようで、お陰で塾に行かなくても自力でコツコツと勉強していました。クラブでのボランティア活動や手話の練習、数人の友達と集まって遊ぶこともメリハリをもって楽しんでいました。

2年生の後半からは生徒会役員にもなり、ますます色んな事に一生懸命向き合っていました。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大という大人でさえ初めての環境の中で、例年通りにいかないことが多く、親として娘がもう潰れてしまうのではないかと心配した位です。それを乗り越え、文化祭の代替え行事をやり遂げた時には一回りも二回りも成長した娘の姿がありました。

そんな状況下、受験準備も同時進行でした。以前から社会福祉士を目指せる大学を考えていた娘は途中迷いもあり、1, 2年生の時に何校かオープンキャンパスに行ってきました。3年時ではコロナ禍でほとんどの大学がオンラインでのオープンキャンパスでしたので、実際に見ておけた事は選択する時にイメージがわきやすくとても有効でした。結局、公立大学の総合型選抜から順にチャレンジしていくことにして、不合格だった時の為に私立大学の受験も考えておきました。総合型選抜では、まず志望理由書の提出、試験は小論文と面接でした。どの過程においても多くの先生方に添削や練習を繰り返して頂き、自信をもって試験に臨め、一つ目の入試で合格することができました。今は専門的な学びが出来るのが楽しいようです。

伊那西高校での3年間は娘にとってどうだったかは卒業式の様子が物語っていました。

娘が何故こんなにも積極的な人間に変わったのか、はっきりした理由はわかりません。でも、伊那西に入学しなかったら、こんな娘の姿は見る事が無かったであろうと確信しています。

(長野大学社会福祉学部社会福祉学科へ進学)

I様 (M・Iさんの父)

娘が伊那西高校への進学を考え出したのは中学3年生の秋だったと記憶しています。中学3年生の高校体験で、伊那西高校に伺った際、校長先生の話や仏教の教え、進学コースの少人数制、校舎の清潔感等に魅力を感じたのが理由でした。

正直なところ公立高校へ進学するだろうなと思っていた私にとっては、思いもよらぬ展開で、どういう高校なのだろうかという不安の方が優っていました。しかし、私の職場に伊那西高校に通っている娘さんの保護者がおり、どんな高校か聞いたところ、「良い高校だよ。とにかく学校全体の指導が手厚い。ここまでしてくれる高校ってないと思うよ。」とのことでした。

実際、伊那西高校に入学した娘から話を聞いてみると、進学コースの授業は丁寧でわかりやすく、クラス内も仲がよく、女子校という女の子だけの学校生活も娘には合っているようでした。1年生の懇談会では、早速、担任の先生から子どもたちの将来や進路に向けてのアドバイスや方向性を示していただき、娘もやる気になって勉強に取り組んでいたように思います。また、歴史好きな娘に、大学の推薦入学等で有効となる世界遺産検定を勧めていただき、2年生の時には1級を取得することもできました。この世界遺産検定1級の取得は娘に大きな自信を与えてくれたと思います。他にも英検や漢検、ニュース検定等、資格取得に意欲を見せてくれたのも伊那西高校に通っていたからこそだと思います。

3年生のいよいよ進路を定めなくてはならないときにも、様々な試験制度からあらゆる可能性を提案していただき、試験対策等、熱心に対応していただきました。ここまで先生方が生徒一人ひとりに熱心に対応していただける学校は、他にはないと私自身改めて感じました。

3年生のときは、新型コロナウイルス拡大の影響もあり、学校生活自体が難しい情勢でしたが、制限がある中でも代替えの文化祭やスポーツフェスティバルを開催していただき、子どもたちに何とか喜びや思い出を、という学校側の子どもたちに寄り添った想いが本当に伝わってきました。

また、保護者が学校や先生方と関われる行事が多いことも伊那西高校の良いところです。同じ世代の子どもを持つ親同士の繋がりや、担任の先生と顔を合わせることで、娘の考え方や親の考え方を相談する機会もできます。イベントには積極的に参加した方が良いと思います。

娘の進学した大学も仏教系の大学ですが、伊那西高校での仏教の授業が娘の心を大きく成長させてくれたと思います。先生方には3年間、熱心にご指導頂き感謝しています。

(京都女子大学文学部史学科へ進学)

S様 (I・Sさんの母)

我が家は二人の娘が伊那西高校にお世話になりました。姉の時に先生と生徒はもちろんですが、保護者との距離がとても近く「面倒見の良さ」を感じていました。

次女は家から通える学校で陸上競技を頑張りたいたいというのが一番の志望動機でしたが、進学コースは少人数で、高校卒業後の進路に向けて細かく授業を選択できるのも魅力の一つでした。

週末、大会や模試などが重なった時は、担任、顧問、進路指導の先生が娘と相談し、両立できるよう話をしてくれました。そのおかげで3年の冬までクラブ活動が続けられ、個人、駅伝ともに北信越出場を果たすことができました。

3年になってからは進路で悩むようになりました。行きたい大学の合格率を考えると一歩が踏み出せないでいた娘に、担任の先生は三者面談だけでなく、何度も話し合いの時間を取ってくれました。いろんなデータを集めて可能性を引き出し、背中を押してくれる先生方のもとで日に日に自信を高めて試験に向かう娘がいました。推薦と一般試験の両方を視野に入れ、苦手科目克服や国語科の先生に小論文の添削をしてもらうため土曜日も学校へ通いました。面接はリモートと対面の両方に備え、学年関係なく様々な先生が時間をみては対応してくれました。また、この大学の試験には課題やレポート提出が何回もあり、その時は専門教科の先生に指導していただき、自信を持って提出できました。それと同時に、自分自身の知識も広がり、第一志望校への意欲が高まっていくのを私たち家族も実感させられました。一人の生徒にこんなに沢山の先生が携わってサポートしてくれる学校は、他にないといっても過言ではないと思います。大学合格の通知を頂いた瞬間、娘と一緒に泣いて喜んでくれた先生方に、親としては感謝の気持ちでいっぱいです。

高校を決める時、女子校ということに少し抵抗があったようですが、実際は女子だけだから楽しめることが多く、思いっきり自分らしさを出せた3年間だったと思います。伊那西高校に通ったことで、また一歩自分の夢に近づくことができたこと、本当にありがたく思っております。

(順天堂大学スポーツ健康科学部スポーツ科学科へ進学)

F様 (N・Fさんの母)

今の娘を見たら、中学時代の先生方や友人らはきっと驚くでしょう。でも、娘の成長ぶりに一番驚いているのは、私たち親かも知れません。そのくらい、伊那西高校にお世話になったこの3年間で娘は大きく成長したと思います。

伊那西に進学を決めたきっかけは、卒業生の保護者からの評判が良かったことと、進路説明会に参加したことでした。そこでは現役の伊那西の生徒さんが、伊那西は先生が一人一人の気持ちに寄り添ってくれるだけでなく、生徒の力を信じて将来の進路を全力でサポートしてくれるというお話がありました。何をどうすればよいのかわからない娘と、娘の将来を憂っていた私たちも一縷の望みをかけて伊那西への進学を決めました。

入学してからは人が変わったようにきちんと机に向かうようになりました。また、クラブ活動の吹奏楽にも一生懸命取り組み、地域で幾度となく催された演奏会では、お客さんの笑顔が娘の幸せとなりました。先生方はいつもクラブ活動も勉強においてもよく見て下さっていて、娘の小さな努力を見逃さず、認め褒めて下さいました。それらの言葉の数々が娘の自信につながっていったと思います。

また、多感な悩める時期に釈尊の教えに触れることができたことも、心の成長につながったのではないかと感じます。そんな仏教の教えも影響しているのでしょうか？伊那西に行くと凜とした空気感が心地よく、また、生徒さんたちの立ち居振る舞いも美しく、笑顔が素敵だなあといつも感心しています。卒業を控えたある日の校長先生のお便りの中に「伊那西の心の偏差値は東大並」という言葉がありました。確かに！！

進学して1ヶ月、人一倍怖がりの娘が東京で一人暮らしをし、コロナの影響でオンライン授業が続く孤独な毎日の中、それでも一生懸命勉強し、毎日工夫を凝らして料理をしている様子を知るにつけ、「自ら学ぶ力・生きる力」がついてきていると感じます。そんな娘の成長をサポートして下さった伊那西の先生方に親子共々心より感謝しています。

(武蔵野大学人間科学部人間科学科へ進学)

K様 (A・Kさんの母)

中3の冬、娘の進路の第一希望は公立高校でしたが、娘がスポーツを得意とすることから、担任の先生に伊那西高校のクラブ活動の成績や評価から進路選択の一つとして案内していただいていたいました。

「伊那西に決めた！」という娘の決断は願書提出ギリギリでした。

親として、伊那西高校が良いと思ったことは、「校則」がしっかりしているという安心感です。制服があること、髪型にもルールがあること、登下校の時間を約束してくれていること等々、やはり、女の子を通わせるには、ある程度の校則に守られ、そして子ども自身がそれを守ることで、安心・安全な3年間を送ることができると感じました。

3年間を通じて、娘は成長しました。人前に出ること、自分の考えを伝えること、発言することの全てを苦手とし、人の後ろをついていくタイプでした。そんな娘が、クラブ活動において、「部長になる。なりたい。」と言ったのです。そんな風に娘を成長させてくださった担任・顧問の先生には感謝しかありません。

しかし、部長になって、新たな困難に直面しました。自分が思うようにプレーできず、「部長なのに・・・」という負い目、意見の食い違い、仲間・後輩のまとめ役等々のプレッシャーに心が折れそうになり「部長を降りたい。」と言いはじめました。また、同時期にクラスメートとの間でネットを通じたトラブルがあり、「学校を辞めたい・・・」と。そんな時、担任の先生は日々の忙しい中、何時でもいいからと時間を作ってください、先生・娘・母親の三人でじっくり話すことができました。親身になって相談にのってください、部長として頑張る勇気を取り戻してくださいました。また、関係するすべての生徒の話聞き、交友関係の修復となる糸口を作ってくださいました。お陰様で、子どもたち自身で、話し合い、納得し、卒業時には泣いて別れを惜しみ、卒業した今も連絡を取り合う友情を取り戻したようです。

伊那西高校での3年間は、娘にとって、これからの人生を歩むうえで、かけがえのない時間であったと思います。人生自分の思うようにばかりにはいかない、時には自分の気持ちを抑えるという協調性を身につけてくれたと思っています。

現在、娘は伊那西高校で学んだことを糧にし、自分の目指す進路に向け、一人暮らしをしながら、学業だけでなく生きていくことの苦労も学んでいます。困難に直面した時には、きっと先生のこと、伊那西高校で試練を乗り越えたこと、クラスメートや部活の仲間のことを思い出してくれることでしょう。

伊那西高校に進学し、卒業できたこと、本当に良かったと思っています。妹にも進学を勧めましたが、本人が他校を希望する強い思いがあったため、親が断念したくらいです。これから進学先を考えている娘さんを持つ保護者の皆様、ぜひ選択肢の1校に「伊那西高校」を加えてみてはいかがでしょうか。女子校・宗教のある学校という中での礼儀作法の習得に加え、西高祭、音楽祭、強歩大会、いろんなイベントも盛沢山で親子で楽しめます。

(現在はコロナの収束を祈るばかりですが・・・)

(飯田女子短期大学幼児教育学科へ進学)

T様 (R・Tさんの母)

私の娘は二人とも伊那西高校にお世話になりました。二人とも自分の持ち味を生かして3年間充実した生活を送ることができ、この学校でよかった、間違いなかったと確信しました。先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。

長女は入学前から進路、部活のことで相談にのっていただき、推薦で入学させていただきました。入学後、新たなクラブ活動を選択する際も背中を押していただき、新たな才能を発見することができました。クラブ活動で根気強くご指導いただいた先生、面倒を見ていただいた先輩方、支えてくれた仲間、信じてついてきてくれた後輩のお陰で、部長を務めることができ本人にとって大きな自信につながりました。

次女も習い事とクラブ活動の両立で悩みましたが、先生の温かな思いやりと友達のお陰で、どちらも続けることができました。人見知りがあり、自分から積極的に行動することが苦手な娘でしたが、男女共学でない環境の中で、自主性を伸ばしてやる気を持たせていただき、それが3年間で自信につながりました。先生方の優しさとしっかりとした教育方針に女子校の良さを改めて実感させていただきました。

お陰様で、現在、二人とも夢に向かって頑張ってくれています。祖父母にも優しく、親孝行で心の温かい娘に育ってくれました。本当に感謝しています。

(飯田女子短期大学看護学科へ進学)

S様 (N・Sさんの母)

伊那西高校に伺うと、生徒みなさん挨拶が出来ていて校舎も綺麗に掃除がゆきとどいています。このような学校なら気持ちよく3年間過ごせると感じました。

伊那西高校に入学して、学校生活は友達にも恵まれ、楽しく過ごせたと思います。勉強面においては、分からないところは各教科の先生に伺いに行くなど、何事にも前向きに取り組めるようになりました。

クラブ活動では書道クラブに入部し、初心者ではありましたが、顧問の先生や先輩方のご指導により多くの賞を頂いた事が本人の励みにもなり、3年間続けられる事が出来たのだと思います。

3年生になり、生徒会役員も務める事となり、最初は勉強やクラブとの両立に戸惑う娘の姿も見られましたが、先生方や友人のみなさんが支えて下さり、責任をもってやり遂げることが出来ました。

進路では、入学試験の小論文と面接試験について、先生方には懇切丁寧なご指導をして頂いたお陰で合格することが出来ました。

新しい生活でも、伊那西高校での3年間の経験を活かして頑張っています。それぞれ多忙な先生方が温かく見守って下さり、熱心にご指導くださいました事に感謝申し上げます。

(松本歯科大学衛生学院歯科衛生士学科へ進学)

N様 (H・Nさんの父)

娘が中学3年時、進学希望で親に言ったことは「男子のいる学校はイヤだ」「電車には乗りたくない」でした。その希望に沿う高校はひとつしかなく、それは自宅から自転車で通える女子校の伊那西高校であり、1年後には入学させていただくこととなりました。親としては「公立高校に通ってほしい」「異性との交流もあったほうが・・・」「電車が乗りたくないという理由はなんだ!」という気持ちはありました。しかし、その気持ちを押し込めて、娘の気持ちを尊重しました。その判断は正しかったと思っています。それは、何より3年間休むことなく通学できたことであり、娘にとって“安心して通える学校”であったと思うからです。その環境が備わっていた伊那西高校の存在無くして娘の高校生活は無かったと考えます。

娘は普通コースに入学しました。担任の先生はじめ先生方の心暖かいサポートもあり、クラスの仲間とも大きなトラブルも無く3年間を過ごすことができました。勉強は頑張った分だけの結果が出せていたのではと思います。中学では取れなかったテストの点数(結果)は、本人の自信にも繋がったのではと考えます。それは自宅学習の積極性にも繋がっていったと思います。

部活は合唱クラブでした。仲間や顧問の先生方に恵まれ、NHKコンクール・総文祭をはじめとした発表会、高齢者施設への慰問などに参加し、楽しんでいましたし、頑張っていました。また、人前での表現機会として人間的成長をさせて頂いたと感謝しています。

高校卒業後は動物看護師の専門学校に進学しました。担任の先生が日頃から親身になって娘の相談にのって頂いたことが、本人の信念を確かにして背中を押して頂いたと思っています。三者懇談でも保護者の悩みに丁寧に応えて頂きました。コロナ禍でもあり、親もサポートしましたが、オープンキャンパス申し込みから見学、学校選択まで本人の意思と行動が見られたところからも、担任の先生はじめ先生方のご指導のおかげだと感謝しています。

学校の雰囲気や環境は、清潔感があり、生徒も笑顔で明るく挨拶してくれます。校庭に植えられている桜の開花は一見の価値ありと(個人的ですが)申しあげておきます。

娘が伊那西高校に通う中で、私自身が気づかされた私見を述べます。義務教育を修了し、その後の進路・進学に悩む親御さんや当事者の方々には少なからずいらっしゃると思います。また県立高校に進めない方の事情も様々あるのではと思います。一方、高校卒業証書は資格社会にとって必要不可欠です。よって若い世代の人が、高校進学できない状況があるとすれば、それは考慮せずにいられません。以上のようなことを今更ながら考えさせられた訳ですが、その時にまさに「私立伊那西高等学校」の存在の必要性、地域に無くてはならない学校であることに気づかされたということです。一保護者の私見として強調させていただきます。

少し固い話しにもなりました。伊那西高校の先生方は、様々な事情を抱える生徒、保護者、関係者と同じ目線に立って、悩み、共感し、真剣にぶつかり合ってくれること。そして高校卒業後の厳しさも踏まえ、今進むべき方向を導いて下さってくれること。だから安心して進学選択して頂きたいということ。以上、3年間の感謝の気持ちも込めまして、私からの寄稿とさせていただきます。

(未来ビジネスカレッジ動物看護師学科へ進学)

S様 (Y・Sさんの母)

高校の進学にあたり、条件として、

1. 幼少期から続けている習い事を最優先できる
2. 勉強もしっかり頑張れる

この二つがありました。いろいろと考えた結果、伊那西高校の進学コースへ行くことになりました。高校へ行ってからは、勉強も人間関係も本当に無理をすることなく3年間を過ごすことができました。20人という少人数クラスの友人や先生方、学校の学習環境の良さがあつたからこそではないかと思います。

1年生の時にクラブを転部しましたが、3年生の時にはクラブ長としてクラブをまとめていくという大役を得たり、選挙管理委員長を務めさせていただき、人前で自分の言葉で話すことの苦手だった娘の成長を見ることができました。本当にこの3年間、過度のプレッシャーを感じることなく、自然体で過ごすことができました。その中でもその子に合った責任の持たせ方で、娘を成長させてくれたと感じています。

(長野県公衆衛生専門学校歯科衛生士学科へ進学)

J様 (H・Jさんの母)

入学式の頃を思い出すと、とても懐かしく思います。つい3年前の話なのに。

娘は何校か高校見学に行き、伊那西高等学校への進学を決めました。娘が見て感じて選んだ高校、信じて見守ろうという思いで親としても高校を決定しました。入学式を迎え、高校生活が始まると、もともと娘は誰とでも話をする社交的な性格でもあつたため、先生方との会話を毎日楽しそうに話してくれました。そして、大事な場面では、様々な先生方に「あなたなら大丈夫だ」と背中を押して頂くことも多く、親身になり接して頂けた先生方のお陰で毎日充実した高校生活が送れたと思います。友達に関しても、協力し助け合える仲間に出会い、娘の高校3年間は大変貴重で大切な思い出になったと思います。

「自分に自信を持ち、前に進めばいいんだ。」そういった事を伊那西高校の校風から感じられる、そんな温かい学校であつたと親として感じます。

娘は高校卒業後の進路に「就職」という選択をしましたが、地元でも有力な企業に入社し、胸を張って社会に出ることが出来て、先生方には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。3年間、あっという間に時間が流れ、娘が伊那西高等学校で過ごせた事を幸せに思うとともに感謝するばかりです。

(伊那食品工業株式会社へ就職)

K様 (M・Kさんの母)

『今までで一番楽しい学校生活だったよ！』

卒業を控えたある日、娘が言った言葉です。

入学に際して、女子ばかりの学校と言うことに多少の不安はありました。でも、友達同士の小さいざこざはどこでも同じ。伊那西高校は、女子だけだからこそ『自分達が主役！』と言う思いも強く、一人一人が活躍できる場所がある学校でした。中学時代に吹奏楽部長や生徒会役員をやってきた娘には、その点が特に合っていたのだと思います。部活動ではまさかの運動クラブにチャレンジ。審判員の資格を取りました。生徒会では体育委員長として行事を成功させました。新型コロナによって様々な制限はありましたが、むしろその中で先生方や友達と協力した結果が達成感を生み、冒頭の言葉に繋がったのでしょう。貴重な経験をさせて頂きました。

進路に関しては、娘は早い段階から就職を希望しており、中でも観光・サービス業に就くことを目標としていました。ところがこのコロナ禍・・・求人自体がどれくらいあるかわからない厳しい状況でしたが、本人はそれでも頑張ってみるとのことで、学校側も最大限のサポートを約束して下さり、大変心強かったです。幸運にも希望する職種の求人があり、夏休み中の職場体験を経た上で受験を決意。コロナの影響で例年より1ヶ月遅れの就職活動には不安もありましたが、先生方には提出書類や作文、面接の練習など、休日を使ってまで親身にご指導を頂き、無事に内定を得ることができました。改めてお礼を申し上げます。

そして迎えた卒業式。

『3年生の皆さん、伊那西高校に来て下さってありがとうございました。』

『3年間様々な活動に頑張ってお返しにありがとうございました。』

叱咤激励することはあっても、生徒を労って下さる校長先生はなかなかいません。伊那西高校のモットーである『和顔愛語』そのものの優しい言葉に、伊那西高校を選んで本当に良かったと思いました。そんな校長先生を始めとして、気さくで熱心な先生方のお陰で、この春、娘は社会人1年生として元気に巣立ちました。

長い人生の中のたった3年間、されど3年間。良い環境、良い友達、良い先生方の中で過ごした日々は娘の宝物だと思います。

(株式会社ホテル紅やへ就職)